

指導農業士が新規就農者を応援

日南町では、1ターンのトマトを栽培する新規就農者が増えています。

そこで、7月14日（火）に先輩農家で指導農業士の池田尚弘さんと岩田正さんに、就農してから5年以内の新規就農者9名のほ場を巡回指導していただきました。

指導農業士からは、ほ場周辺の排水対策や雑草対策等の衛生管理の面や草勢、誘引、腋芽とり、病虫害対策が十分にできているかなど栽培技術面の指導がありました。

また、研修会があったときなどは積極的に参加することや他の人のほ場をよく見ることなど、農家としての姿勢もアドバイスがありました。

新規就農者は、指導農業士からの指摘事項について熱心に耳を傾けていました。

*指導農業士とは、鳥取県が認定し、主に地域の新規就農者の育成支援や地域農業の振興を図る取組を行っています。



指導農業士のアドバイスに耳を傾ける新規就農者

問 | 日野振興局 日野農業改良普及所 電話:0859-72-2025 FAX:0859-72-2090

河川と道路の清掃ボランティア

毎年7月は河川愛護月間として、全国的に国、県、市町村、河川愛護団体等による河川に関連した様々な行事が行われています。

また、毎年8月は道路ふれあい月間として、道路利用者の視点に立った運動が実施され、8月10日は道路愛護の「道の日」として、全国的に各種の運動が実施されています。

日野振興センターにおいても、河川愛護月間及び道路ふれあい月間中の行事として、ボランティア団体や日野町と協力して清掃ボランティアを行いました。

7月30日（木）には、日野町地元自治会や日野川の源流と流域を守る会を含め約100人のボランティアの方にご協力いただき、板井原川河川公園内でゴミ拾いや草刈り、集草を行いました。



板井原川の河川清掃



根雨町道のゴミ拾い

問 | 日野県土整備局 維持管理課 電話:0859-72-2046 FAX:0859-72-2092

境港市学校給食に日野町産海藻米が採用

中海の海藻は江戸時代には肥料として農業に広く活用されていました。

日野町では平成24年から有志によって、中海の海藻肥料を使った米の栽培に取り組まれていて、平成27年には海藻農法普及協議会日野支部（代表 松本洋一氏）を発足し、現在は生産者6名、15ヘクタールで栽培されています。

この度、境港市の小学校と松本洋一さんが以前から行っていた田植や収穫の体験交流がきっかけとなり、2学期から境港市学校給食（7小学校、3中学校）で日野町産海藻米が使用されることになりました。

これにより環境保全や農業振興、川上川下の交流促進など、一石何鳥もの様々な効果が期待され、

この秋からは、境港市の子どもたちに、おいしい日野産新米を堪能してもらえます。



海藻米納入協定調印式

(写真左から：景山日野町長、中村境港市長、松本氏)

問 | 日野振興局 日野農業改良普及所 電話:0859-72-2028 FAX:0859-72-2090

町の中でキャリア教育を

「人と地域の未来への架け橋教育」という目標を掲げ、今年度から新カリキュラムをスタートした日野高校。校内での学習だけに留まらず、生徒が町へ飛び出し、地域の皆さんと世代を超えた交流を行うことで、生徒には社会のリアリティを感じてもらい、地域には若いエネルギーが産む斬新なアイデアを楽しんでもらおうと、様々な企画を実施しています。

毎月のように行われる農業交流授業のほか、6月には、陸上競技部の生徒が日野町役場で「健康講座」を開催し、住民の関心を集めました。7月には、演劇部の生徒が江府町で「天の蛍」の朗読に挑み、キャンペーンを盛り上げました。8月には、バレー部の生徒が小学校の子ども教室で手品講座のスタッフとして活躍し、茶道部の生徒は根雨街道でのお茶会にチャレンジしました。

このように高校が立地する地域を舞台に行うキャリア教育は、現在、全国各地で実施されています。特に地方では、これまで育てた子どもを都市部に送り出す機関のようになっていたことを反省し、生徒を地域と関わらせることによって地域への愛着を育て、将来は地元へ戻り活躍できるような人材を育てるための起爆剤となっています。

若者の主体性やチャレンジ精神を地域ぐるみで応援し、かつ地域も元気に盛り上がっていくことを目標に、今後も地域とのコーディネート活動を続けていく予定です。



陸上競技部による健康講座



黒坂施設で行われる小学生との交流授業

問 | 日野振興局 地域振興課 電話:0859-72-2082 FAX:0859-72-2072